

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第 92 号

平成 27 年 9 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

秋の長雨が続く中、稲穂も実り、黄金色に広がる田園風景に季節の移り変わりを実感する今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

「第4回東北ジオパークフォーラム」が開催されました

久慈市

平成 27 年 8 月 28 日（金）～8 月 29 日（土）、「第 4 回東北ジオパークフォーラム」（主催：三陸ジオパーク推進協議会）が久慈市で開催されました。これは東北地方のジオパーク関係者が一堂に会し、それぞれの取組等相互共有を図ることにより、東北地方におけるジオパークのさらなる推進に向けた契機とするもので、関係者らおよそ 200 人が参加しました。

基調講演では東京大学地震研究所の中田節也（なかだせつや）教授から、世界のジオパークと比較した観点から三陸ジオパークの意義、課題等について話され、その

後の分科会ではジオパーク推進に向けた取組や課題等、積極的な意見交換が行われました。

2 日目は 3 コースに分かれて三陸ジオパークのジオサイトを巡るエクスカージョンを実施、参加者は各ポイントでジオガイドの解説に耳を傾け、雄大な三陸の自然を感じていました。

現在認定に向けた取組を行っている 5 地域（下北半島、栗駒山麓、鳥海山・飛鳥、蔵王、月山）への後押しとともに、三陸ジオパークを通じた観光面での復興に期待が寄せられています。



中田教授の講演の様子



ジオガイドの解説に耳を傾ける参加者



「三陸ぐるっと食堂 in KAMAISHI × B-1 グランプリ」開催！

釜石市

平成 27 年 8 月 29 日（土）～8 月 30 日（日）、食を通じた地域交流のイベント「三陸ぐるっと食堂 in KAMAISHI × B-1 グランプリ」（主催：同実行委員会）が釜石市鈴子町の「シープラザ遊」で開催され、多くの来場者で賑わいました。

このイベントは、東日本大震災津波からの復興に取り組む三陸沿岸を県内外に情報発信することを目的に行われたもの。日本最大級のまちおこしイベントとして知られる「B-1 グランプリ」を主催している「愛Bリーグ」の公認イベントとして、三陸地域では初めての開催となりました。

当日は、釜石市（3 団体）・岩泉町・宮古市・大槌町・住田町・大船渡市の地元地域づくり 8 団体と B-1 グラン

プリ出店経験のある県内外 7 団体、計 15 団体が出店。それぞれの団体は、ご当地グルメでまちを盛り上げようと PR し、来場者は自慢の味を満喫しました。

また、会場内のステージでは、釜石市の郷土芸能の「虎舞」や市民吹奏楽団による演奏も披露され、イベントを盛り上げました。



イベント会場の様子



披露された「虎舞」

三陸だより

「マリン・ツーリズム山田」が活動を再開！

山田町

東日本大震災津波で甚大な被害を受け、活動を休止していた「マリン・ツーリズム山田」は、山田湾クルーズ、無人島「オランダ島」散策、カキ・ホタテの養殖漁業の見学・体験など、地元漁師と触れ合える体験メニューを再開しました。

※実施期間 4 月～10 月 / 1 週間前までに予約が必要

【お問い合わせ】山田町観光協会 ☎ 0193-84-3775



期間限定！宮古－釜石を結ぶ直行便バスを運行

宮古市・山田町・大槌町・釜石市

岩手県沿岸広域振興局は、平成 27 年 9 月 5 日（土）から宮古市と釜石市を結ぶ直行便バス（運営・岩手県北バス）の運行を開始しました。

これは、東日本大震災津波で被災した JR 山田線（宮古駅 - 釜石駅）が不通となっている中、「岩手県三陸地区の南北の移動に不便を感じる。」という観光客や住民の声に応えるもので、秋の行楽シーズンを迎えるにあたり、利便性の向上を図ることを目的としています。

運行日は、平成 27 年 9 月 5 日（土）から同年 11 月 29 日（日）までの土日祝日と、同年 11 月 2 日（月）の期間限定。予約は不要で、運賃は宮古－釜石間片道で中学生以上 1,500 円、小学生以下 750 円。

宮古 - 釜石間を約 1 時間 50 分で結び、1 日 2 往復運行。釜石駅前、三陸花ホテルはまぎく、道の駅やまだ、

やまだ観光物産館とっと（宮古行きのみ）、宮古駅前、浄土ヶ浜パークホテル前に停車します。

釜石発 - 宮古行きの便は、途中のやまだ観光物産館とっとで約 15 分停車。ホタテやカキ等、三陸地域の特産品等を購入することも可能です。

また、宮古発 - 釜石行きの便では、三陸花ホテルはまぎくに約 15 分停車し、ホテルの庭園テラスからの浪板海岸の景観を楽しむことができます。

直行便バスの運行は、宮古 - 釜石間移動の利便性向上に加え、三陸鉄道北リアス線と同南リアス線を結ぶ交通網が確保されることになり、岩手県三陸一帯の観光の相乗効果が期待されます。

■お問い合わせ■ 岩手県北バス宮古駅前案内所 ☎ 0193-62-3620
岩手県北バス宮古営業所 ☎ 0193-64-6060



釜石駅前を出発する直行便バス



直行便バスの車窓からの眺め

釜石発		停留所	宮古発	
10:15	16:00	釜石駅前	9:40	15:40
10:55	16:40	三陸花ホテルはまぎく	9:00	15:00
11:05	16:50	道の駅やまだ	8:35	14:35
11:30	17:15	やまだ観光物産館とっと		
12:05	17:55	宮古駅前	7:50	13:50
12:25	18:15	浄土ヶ浜パークホテル前	7:30	13:30

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第 44 回目は、平館 理恵子さんを紹介します。

PROFILE

大槌町出身。
大学卒業後、盛岡市でカメラマンアシスタントとして勤務。

東日本大震災津波後、大槌町の ICT（情報通信技術）関連事業プロジェクトに応募。平成 25 年 5 月大槌町に戻り、一般社団法人「KAI OTSUCHI」として本格的に事業を開始。ICT 関連事業に積極的に取り組んでいる。

ICT を活用して地域貢献を

震災当時、盛岡で勤務する中、内陸と沿岸の震災への温度差を感じながらも、何をしたら沿岸地域のために役に立てるのか見出せなかった平館さん。大槌町が ICT 関連事業のプロジェクト研修生を募集していることを知り、写真やデザインなど今までやってきたことが生かせると思い、プロジェクトに応募しました。

未来の

さんりく びと

一般社団法人
「KAI OTSUCHI」理事長
平館 理恵子
(ひらだてりえこ) さん



平館さんからのひと言：
大槌町を ICT 教育のまちに

平成 27 年 7 月には、大槌町より依頼を受け、一般社団法人「KAI OTSUCHI」として、スマートフォン用アプリ「おおつち Oh! TSUCHI!」を開発。このアプリは、大槌町の観光情報を発信すると同時に、緊急時の避難誘導にも役立つと注目されています。

“ICT 教育のまち”を目指して

アプリの開発と並行して、3DCAD（3次元設計ソフト）を使って大槌町の復興まちづくり計画の 3D（立体視）化も行っている平館さんは、「目に見える復興はこれからののかと思います。三陸地域は東京からのアクセスも良くありませんが、ネットワークを活用した地域づくりは有効だと思っています。“ICT のまち”は多くありますが、“ICT 教育のまち”は少なく、大槌町とも ICT の人材育成委員会を立ち上げていますので、将来は大槌町を“ICT 教育のまち”にしたいと思っています。」と意気込みを語ります。

時代の流れに合わせた、特色あるまちづくりに期待が寄せられます。

岩手県の被害状況

平成 27 年 8 月 31 日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672 人 行方不明者：1,129 人
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,164 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 8 月 31 日現在

- ▶義援金受付状況 約 184 億 31 万円 (91,932 件)
- ▶寄付金受付状況 約 196 億 8,777 万円 (7,429 件)
- ▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約 76 億 8,855 万円 (16,125 件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 92 号 平成 27 年 9 月 15 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 10 月 1 日号の発行を予定しています。